

書道美術

公益財団法人
全国書道美術振興会
会報

第32号
平成27年4月1日発行
発行者 (公財)全国書道美術振興会
編集責任者 坂本敏史
東京都港区赤坂 2-11-1
宮原ビル6階
電話 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
ホームページ <http://shobi.or.jp/>

題字は福島慎太郎初代理事長

「書写・書道教育の充実のための署名」 94万人を超える

書写・書道教育の充実、とりわけ毛筆書道教育の充実を図るため、平成25年6月に文部科学大臣に「書写・書道教育に関する要望書」を提出し、その要望

内容の実現のために「書写・書道教育推進協議会」が平成26年4月に発足した。同協議会は、要望書提出の構成団体（公益財団法人全日本書道連盟、公益財

団法人全国書道美術振興会、全日本書写書道教育研究会、全日本高等学校書道教育研究会、全国大学書写書道教育学会、全国大学書道学会）を中心に賛同団体（一般社団法人毎日書道会、読売書法会、産経国際書会、公益社団法人日本書芸院、全日本書文化振興連盟、全国書道高等学校協議会）も参加して、書写・書道教育の実態調査および研究、小・中学校での毛筆指導実践研究、

指導力向上のための研修教材研究および開発、指導教員の研修、書写・書道教育充実のための請願などを行うこととしている。同協議会の活動として、まず署名活動を行った。「書写・書道教育の充実のための署名」は要望書の内容に国民の広範囲の賛同が得られている証として文部科学省に届けることを目的とした。当初50万人を目標としたが、署名運動は大きな高まりを見せ、90万4483人の署名が集まった。同協議会では代表して荒船清彦会長、津金孝邦副会

「書の振興と教育を考える」 座談会開かれる

長、樽本樹郎副会長、田中節山実務委員が、9月24日に下村博文文部科学大臣を訪問し、その署名簿を提出。大臣は「要望書の内容に90万人を超える賛同の署名が集まったことは重く受け止める」と述べて受け取った。

この提出の際には、要望書趣旨に賛同している書道国会議員連盟の河村建夫会長（衆議院議員、元文部科学大臣）と関芳弘事務局長（衆議院議員、経済産業大臣政務官）も同席した。

書写・書道教育の推進と充実を求める署名活動に全国から94万人を超える署名が寄せられた。活動の中心になった書写・書道教育推進協議会と日本書芸院は、この機運をさらに高めるため、座談会を共同で開催し、様々な課題や今後の展望を話し合った。

■出席者

荒船清彦（公益財団法人全国書道美術振興会会長、書写・書道教育推進協議会会長）

老川祥一（読売新聞グループ本社取締役最高顧問・主筆代理、読売書法会会長）

河村建夫（衆議院議員、書道国会議員連盟会長）

宮澤正明（山梨大学教授、全国大学書写書道教育学会理事長）

吉川蕉仙（公益社団法人日本書芸院理事長）

横山煌平（公益社団法人日本書芸院副理事長）

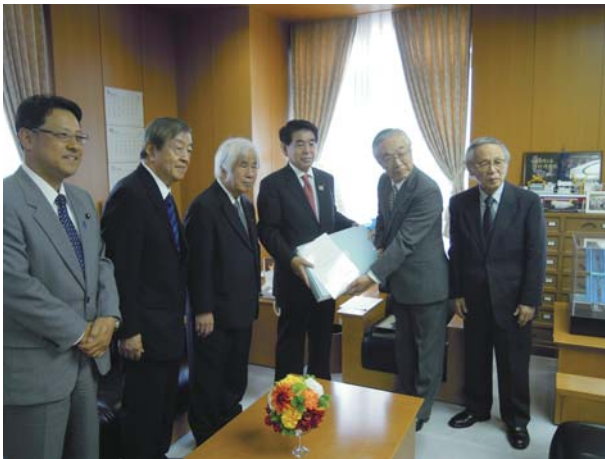
■立会人

関芳弘（衆議院議員、書道国会議員連盟事務局長）

■開催日 平成26年10月29日

■会場 パレスホテル東京

中央は下村博文文部科学大臣



提出した94万4483人の署名簿

詳細は日本書芸院広報紙「書くよろこび」第9号（平成27年2月発行）を参照。

「書写・書道教育に関する要望書」の 「具体的内容」を提出

書写・書道教育推進協議会では、平成25年6月27日に文部科学大臣に提出した「書写・書道教育に関する要望書」につき、要望内容実現に向け、さらに具体的な要望書を平成26年2月5日に提出した。宛先は文部科学省初等中等教育局・小松親次郎局長と同局教育課程課・合田哲雄課長。具体的内容は以下のとおり。なお、枠内は先に提出した要望内容。

具体的内容

書写・書道教育推進協議会

○小学校 国語科教育および国語科書写教育の一層の充実を希望する

小学校においては、国語科書写教育の一層の充実および硬筆の基礎となる毛筆を第一学年から取り上げ、文字の成り立ちや筆順に触れることなど、毛筆が授業で確実に教えられるよう各学校への指導を徹底していただきたい。

①第一学年および第二学年

文字を手書きすることの意義に気付かせ、硬筆による書写の能力の基礎を養うため、硬筆の指導とともに毛筆を第一学年から取り上げていただきたい。
毛筆（水書など軟筆も含む）を体験することにより、硬筆の基礎が養われるよう指導していただきたい。
当協議会は現在、小学校の協力を得て第一、二学年を対象に毛筆などの実験的授業を行っており、実施案をまとめたい。

【時間の明示】

国語科の第一、二学年の時間数枠内に、「毛筆（水書など軟筆も含む）」を使用する書写」の時間数を明示していただきたい。

②第三学年～第六学年

現行の学習指導要領に示された内容ならびに時間数を、確実に実施していただきたい。
毛筆を使用する書写の時間数は、年間三十単位時間程度となっている。

③全年共通

【評価欄の設置】

国語科の評価欄に「書写」の評価を加え、授業を確実に実施していただきたい。

【指導者の研修】

国語科の「書写」指導を中心とした指導者研修を実施し、「書写」指導の確実な実施につなげていただきたい。
当協議会は、講師派遣および指導教材作成につき協力する考えがある。

○中学校 国語科教育および国語科書写教育の確実な実施、一層の充実を希望する

中学校においては、国語科書写教育の一層の充実および学習指導要領に示された内容ならびに時間数を確実に実施していただくとともに、とりわけ毛筆による書写の学習等を通じて、我が国の言語文化の豊かさに触れるような実践をするよう各学校へ強く指導していただきたい。

現行の学習指導要領で、中学校国語科書写は小学校と同様「伝統的な言語文化と国語の特質」という事項に位置づけられ、従前より「毛筆は硬筆による書写の能力の基礎を養うこと」とされている。小学校の現行学習指導要領において、特に「第五学年及び第六学年」の中に、「穂先の動き」や「点画のつながり」など毛筆ならではの文言が加えられた。小学校国語科書写での学習が中学校国語科書写へとスムーズにつながることを考えると、毛筆を使用して書写の学習をすることがより重要であると考えられる。さらに、小学校での文字を正しく整えて書く整齊な技能を中学校の最初の

段階では確かめ、それらの定着を図りながら高等学校芸術科書道への円滑な接続を考慮して、中学校の後半は文字の多様な美へ発展できる指導が行えるよう、時間数の確保と内容の一層の充実を図っていただきたい。

【評価欄の設置】

国語科の評価欄に「書写」の評価を加え、授業を確実に実施していただきたい。

【文字文化に関する認識を高める学習】

中学校の国語科書写から高等学校の芸術科書道への円滑な接続を図っていただきたい。

・身の回りの多様な文字に関心を持つことで、文字を手書きすることの意義に気付かせる授業を実施するよう指導していただきたい。

・文字の芸術性に関心を向ける素地を養うなど、文字文化に関する認識を深める授業を実施するよう指導していただきたい。

【指導者の研修】

国語科の「書写」指導を中心とした指導者研修を実施し、「書写」指導の確実な実施につなげていただきたい。
当協議会は、講師派遣および指導教材作成につき協力する考えがある。

○高等学校

高等学校においては、書道教育の一層の充実および我が国の伝統文化の尊重という視点に立って、芸術科書道の科目の増単位を要望するとともに、生涯学習社会における書道教育の一層の充実という観点から各都道府県教育委員会に書道教員の採用拡充を求めていただきたい。

伝統文化の尊重からも、生涯にわたって書を愛好する心情を育てる目標達成のためにも、現在の単位数では指導不十分である。芸術科の増単位を要望する。

「日本の書展」 スペイン展・ポルトガル展開催

現代日本の代表的書家の作品91点で構成する「日本の書展」海外展は、2013年11月のスペイン展から始まった。日本スペイン交流400周年の記念事業の一つとして、スペイン国内をマドリッドのスペイン国立図書館、サラマンカ大学日西文化センター美智子さまホール、エストレマドゥーラ州議会ホール、アリカンテ大学附属美術館と4会場を巡回し、総入場者は2万4000人だった。共催の在スペイン日本国大使館からも記念事業の中でも重要な企画として展開し、両国民の相互理解の促進と友好親善に寄与したとの感謝状が寄せられた。

引き続きポルトガル展をリスボンのカルスト・グルベンキアン財団で2014年10月10日から12月28日まで開催した。10月9日の開会式では、荒船清彦会長が「日本とポルトガルの400年以上にわたる文化交流の

歴史の中で、現代日本の最高レベルの書芸術を初めてポルトガルの皆様にご紹介できることは望外の喜び」と挨拶し、グルベンキアン財団のアルトゥール・サントス・シルヴァ理事長から「この展覧会によって、日本の書が個性的な芸術でありながら、長きにわたって連綿と継承されてきた芸術であることの理由を理解されることでしょう」と期待を述べ、併せて共催の在ポルトガル日本国大使館と当会への謝辞を述べた。内覧後、漢字の市澤静山氏、仮名の師田久子氏による席上揮毫が行われた。両氏には都合三度の席上揮毫をしていただいたが、どの会場も盛況で、熱心に見入る観客は一気に仕上がり、いく作品に感嘆の声をあげていた。また、リスボン大学芸術学部ではワークショップを開催し、50名の学生などの参加者が、渡航団15名の書家全員の指導により、書の体験をした。その様子は地元有力紙に大きく取り上げられるなど、芸術としての日本の書に対する関心は高いものがあった。

へスペイン展・ポルトガル展

出品者

現代書壇巨匠

高木 聖鶴 古谷 蒼韻

現代書壇代表

村寄	宮崎	松永	真神	日比野	西村	檜崎	中林	中川	内藤	土井	辻元	田頭	高木	関	鈴木	芝村	貞政	佐伯	加藤	恩地	大平	大河内	江口	牛窪	岩永	伊藤	市澤	石永	石田	浅見	甫田	津金	小山	黒田	尾崎	梅原	新井	日比野
鴨	葵	暁	巍	野	東	華	裕	富	汲	邑	一	聖	吾	春	妙	松	少	華	子	春	匡	仙	大	梧	栖	天	静	甲	雲	錦	鶴	孝	賢	邑	清	光	光	
蛙	光	石	堂	実	軒	祥	皓	卿	泉	園	舟	雨	心	朝	石	翠	登	水	華	洋	昭	嶽	象	十	邨	游	山	峰	龍	川	邦	一	鵬	山	清	風	鳳	
毛	村	三	松	藤	東	西	中	中	仲	内	土	田	高	田	鈴	鈴	清	師	佐	河	角	岡	大	海	植	今	一	泉	石	有	星	樽	黒	杭	榎	池	井	
利	上	岡	清	岡	山	村	村	野	川	藤	橋	中	木	岡	木	木	水	田	川	野	元	田	澤	大	井	松	村	色	原	飛	岡	道	本	野	迫	田	茂	
柳	村	天	秀	都	一	自	仲	北	恭	望	靖	厚	正	瑞	一	透	久	倩	隆	正	契	城	錦	海	弘	桂	白	壽	博	郊	弘	樹	清	香	桂	圭		
村	山	邑	仙	逕	郎	耕	夫	漠	司	山	子	人	堂	之	敬	石	子	崖	燦	雪	山	亭	山	祥	山	山	泉	巖	光	崖	道	邨	宇	邨	鳳	洞		

開会式後に実施されたデモンストレーション



師田久子氏



市澤静山氏



開会式で挨拶をする荒船会長

望月 和風
森嶋 隆鳳
森川 星葉
山田 彦七
勝香



リスボン大学芸術学部でのワークショップ



内覧会の様子

山根 互清
吉川 美恵子
※91名 敬称略・五十音順
横山 煌平
和中 簡堂

第42回「日本の書展」

関西展

平成26年5月29日(木)

6月1日(日)

会場 大阪国際会議場

主催 (公財)全国書美術振興会・

産経新聞社

後援 文化庁

協賛 (公社)日本書芸院

出品数は、巨匠15点、代表74点(計89点が全展を巡回)、委嘱27点、招待373点、秀拔選609点、合計1098点、入場者数は約2300名だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をしている。



荒船清彦会長



津金孝邦理事長



井茂圭洞名誉顧問

会期初日の5月29日(木)、リーガロイヤルホテル「光琳の間」で約360名の出席による開幕祝賀会を行った。主催者を代表して津金孝邦理事長からは「書道12団体が合意し、書写・書道教育に関する要望書を文部科学省と中央教育審議会、文化庁に提出する活動をしている。書の普及振興のために、皆様方の一層のご支援をお願いしたい」、また荒船清彦会長から「先の海外展を通して、日本の書は海外でも広く深く理解されていく時代になりつつあると同時に、感銘を与えることができる芸術であると思うことができた。一方国内では、書写・書道教育については将来に危機感を覚える。学校教育できちんとした毛筆書が教えられ、日本の書を守っていくことができるよう、協力をお願いしたい」との挨拶、産経新聞社齋藤勉専務取締役・大阪代表から共催者挨拶があった。出品書家を代表して井茂圭洞名誉顧問からは「書家にとっては、書の普及、発展は等しく、皆の願い。出品者の皆さんには、日

中部展

○第1会場

平成26年6月4日(火)

6月8日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー



中林路風参事



大阪国際会議場

本の伝統文化の一つである書道の人口の増加、発展に寄与してくださっていることを心より感謝申し上げます」との挨拶があり、特命全権大使関西担当三輪昭氏の乾杯の発声により祝宴に入った。

(愛知芸術文化センター8階) ○第2会場

平成26年6月3日(火)

6月8日(日)

会場 名古屋博物館

主催 (公財)全国書美術振興会・

中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・

三重県・名古屋市・各県市教育

委員会・東海テレビ放送

協賛 (公社)中部日本書道会

愛知県美術館ギャラリーと名古屋博物館で開催。出品数は、巨匠、代表の89点、委嘱17点、招待157点、秀拔選562点、合計825点、会期中の入場者



愛知県美術館ギャラリー



名古屋市博物館

東京展

平成26年6月12日(木)

6月22日(日)

会場 国立新美術館

主催 (公財)全国書美術振興会・

共同通信社

後援 文化庁



衆議院議員・書道国會議員連盟会長河村建夫氏

数は2会場を合わせて約3900名だった。中日新聞紙面での展覧会紹介、東海テレビ放送の放映があった。6月4日(水)、名古屋東急ホテル「ヴェルサイユの間」で約330名の出席による開幕祝賀会を行った。津金理事長、荒船会長から主催者代表挨拶、中日新聞社小山勇常任顧問から共催者挨拶があった。出品書家を代表して中林路風参事からは、これまでの日本の書展を振り返り「42回とひとくちに言ってもたいへんな年数である。幸いにも皆さんには毎年のように力作を発表されている。今後ますます中部の日本の書展を盛り上げていってもらいたい」との挨拶があり、東海テレビ放送加藤昭宏事業局長の乾杯の発声により祝宴に入った。

出品数は、巨匠、代表の89点、委嘱35点、招待539点、秀拔選792点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱54点も同時に展示し、総展示数は1509点になった。入場者数は約7350名だった。

会期初日の6月13日(木)、ホテルオークラ東京本館「平安の間」で開幕祝賀会を行い、約500名の出席があった。津金理事長、荒船会長から主催者挨拶、共催の共同通信社古賀尚文代表取締役社長から挨拶があった。続いて、衆議院議員、書道国会議員連盟会長の河村建夫氏から「我々国会議員も、日本の伝統文化である書道・書写をより広めるため、議員の立場から応援していかねばならない。書展は、まさに日本の書道文化を統合したもの。日本の書展が42回も続く歴史があることも素晴らしいことである」と来賓祝辞があり、独立行政法人国際交流基金安藤裕康理事長の乾杯の

発声により、祝宴に入った。書道国会議員連盟からは河村氏のほか、副会長の塩谷立氏、事務局長の関芳弘氏の出席もあった。

九州展

平成26年7月10日(火)

7月15日(日)

会場 福岡アジア美術館
主催 (公財)全国書美術振興会・西日本新聞社
後援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠、代表の89点、委嘱10点、招待111点、秀拔選206点、合計441点、会期中の入場者数は約1470名だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。

会期初日の7月10日(火)、ホテルオークラ福岡「平安の間」で開幕祝賀会を行ったが、台風の影響を受けながらも約70名の出席があった。津金理事長、荒船会長から主催者挨拶。西日本新聞社万生剛取締役営業本部長



国立新美術館



福岡アジア美術館



公募臨書(前期展示)

から「書美術ファンが待ち望む『日本の書展』九州展の開幕を迎えられたこと、心から嬉しく思う。新聞社としても本展を息長く取材することで、西日本の書文化の隆盛、継承、発展、寄与することを願ってやまない」との共催者挨拶があった。続いて師村妙石参事から書家代表挨拶、松清秀仙評議員の乾杯の発声により、祝宴に入った。

公募臨書(東京展会場内)

平成26年6月12日(木)

6月22日(日)

会場 国立新美術館
書の基本である臨書に限った公募展も、今回で3回目となった。出品要項は、「日本の書展」直轄展、地方巡回展の会場をはじめ、全国の表具店、美術館・博物館、大学等に配布しているが、今回は全国から約10000点の応募があった。12名の当会役員審査員による厳正な審査が

行われ、その中から502点が入選し、国立新美術館の「日本の書展」東京展の会場内に展示された。表装された作品は、展示終了後、入選證と一緒に入選者に届けられたいへん好評だった。

次回、第43回展の応募は平成26年10月末で締め切られ、平成27年1月22日に審査員による審査会が行われた。入選作品は、6月開催の東京展の会場内に同時展示される予定。

第42回

「日本の書展」巡回展

「日本の書展」の直轄四展が終了後、現代書壇巨匠、代表の全作品89点が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回。地元作家も出品し、各地それぞれ特徴ある展覧会を開催している。第42回「日本の書展」巡回展は、次の日程にて全9会場で開催。

開催地(主催新聞社)・会期・会場の順

- 高岡(北日本新聞社)
平成26年7月18日～7月21日
- 富山県高岡文化ホール
- 米子(山陰中央新報社)
平成26年8月21日～8月24日
- 米子市美術館
- 宇都宮(下野新聞社)
平成26年8月27日～8月31日
- FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店
- 青森(東奥日報社)
平成26年9月4日～9月8日

青森市民美術展示館

○広島(中国新聞社)
平成26年9月25日～9月30日

福屋広島駅前店

○岡山(山陽新聞社)
平成26年10月15日～10月20日

天満屋岡山店 6階葦川会館

○奈良(奈良新聞社)
平成27年2月18日～2月22日

奈良県文化会館

○長野(信濃毎日新聞社)
平成27年3月3日～3月8日

長野県信濃美術館

○水戸(茨城新聞社)
平成27年4月11日～4月16日

茨城県立県民文化センター

展覧会案内

第43回「日本の書展」

関西展

平成27年5月28日(木)

5月31日(日)

大阪国際会議場(3階イベントホール)

午前10時～午後5時「最終日は午後4時閉館」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・産経新聞社

後援 文化庁

協賛 公益社団法人日本書芸院

中部展

※今回は1会場

平成27年6月3日(水)

6月7日(日)

愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

午前10時～午後6時「5日(金)は午後8時閉館、最終日は午後

4 時閉館、入館は各日とも閉館
30 分前まで」
主催 公益財団法人全国書美術
振興会・中日新聞社
後援 文化庁・愛知県・岐阜県・
三重県・名古屋市中・各県市教育
委員会・東海テレビ放送
協賛 公益社団法人中部日本書
道会

東京展 公募臨書

平成 27 年 6 月 11 日 (木)
6 月 21 日 (日)
〈16 日 (火) は休館日〉
国立新美術館 (展示室 1A・1
B・1C・1D)
午前 10 時～午後 6 時「入館は午
後 5 時 30 分まで」
主催 公益財団法人全国書美術
振興会・共同通信社
後援 文化庁

九州展

平成 27 年 7 月 9 日 (木)
7 月 14 日 (火)
福岡アジア美術館 (7 階企画ギャ
ラリー／8 階交流ギャラリー)
午前 10 時～午後 8 時「最終日は
午後 5 時 30 分閉館、入館は各日
とも閉館 30 分前まで」
主催 公益財団法人全国書美術
振興会・西日本新聞社
後援 文化庁

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品

が、当会と共同通信社、地元各
新聞社の共催、文化庁後援のも
と全国を巡回。
開催地 (地元新聞社) ・会期・
会場の順

富山 (北日本新聞社)
平成 27 年 7 月 17 日～7 月 20 日
富山県民会館
松江 (山陰中央新報社)
平成 27 年 8 月 6 日～8 月 10 日
島根県立美術館
宇都宮 (下野新聞社)
平成 27 年 8 月 26 日～8 月 30 日
FKD ショッピングモール宇都
宮インターパーク店
青森 (東奥日報社)
平成 27 年 9 月 10 日～9 月 14 日
青森市民美術展示館
広島 (中国新聞社)
平成 27 年 10 月 1 日～10 月 6 日
福屋広島駅前店
岡山 (山陽新聞社)
平成 27 年 10 月 14 日～10 月 19 日
天満屋岡山店 6 階葦川会館
奈良 (奈良新聞社)
平成 28 年 2 月 17 日～2 月 21 日
奈良県文化会館
長野 (信濃毎日新聞社)
平成 28 年 3 月 4 日～3 月 7 日
長野県信濃美術館
水戸 (茨城新聞社)
平成 28 年 4 月 9 日～4 月 14 日
茨城県立県民文化センター
※開催情報は変更となる場合が
あります。

役員名簿

代表理事・会長
荒船 清彦
代表理事・理事長
津金 孝邦

業務執行理事・常務理事

新井 光風 石飛 博光
黒田 賢一 鈴木 春朝
星 弘道

理事

有岡 郊崖 市澤 静山
今村 桂山 大平 匡昭
岡田 契雪 師田 久子
清水 透石 高木 聖雨
田中 節山 内藤 富卿
仲川 恭司 真神 巍堂
横山 煌平

監事

角元 正燦 高木 厚人
永守 蒼穹

※任期 平成 26 年 12 月 7 日～平成 28 年 12
月開催予定の定時評議員会の終結時

評議員

明石 聴濤 石澤 桐雨
石田 雲鶴 石永 甲峰
泉原 壽巖 一色 白泉
伊藤 溪泉 井上 映粧
井之上南岳 岩田 海道
岩永 栖邨 植松 龍祥
牛窪 梧十 海野 涛山
江幡 春涛 大澤 城山
加藤 子華 河野 謙介
鬼頭 翔雲 紅野 隆
霜鳥 秋則 田頭 一舟
土井 汲泉 中村 仲夫
○西村 東軒 萩庭 勇

名譽顧問

犬養 康彦 鈴木 勲
高木 聖鶴 古谷 蒼韻
日比野光鳳 井茂 圭洞
顧問
池田 桂鳳 梅原 清山
榎倉 香邨 尾崎 邑鵬
杭迫 柏樹 黒野 清宇
小山やす子 樽本 樹邨
甫田 鶏川

参事

赤江 華城 飯高 和子
岩井 韻亭 植松 弘祥
江口 大象 大井 錦亭
大河内仙嶽 大重 筠石
大西きくゑ 恩地 春洋
加藤 湘堂 貞政 少登
穴倉 啁風 芝 松翠
師村 妙石 鈴木 一敬
鈴木 瑞之 辻元 邑園
土橋 靖子 中川 裕皓
中島 藍川 中野 北溟
中林 路風 中村 天香
檜崎 華祥 西村 自耕
藤岡 都逕 松塚 玲糸
松永 暘石 三神 榮軒

近年物故者

次の先生方が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。
東山 一郎先生
(参事・現代書壇代表)
平成 25 年 12 月 8 日 85 歳
伊藤天游先生
(参事・現代書壇代表)
平成 26 年 1 月 16 日 88 歳
佐川倩崖先生
(評議員・現代書壇代表)
平成 26 年 7 月 29 日 64 歳
草野靄田先生
(参事・現代書壇代表)
平成 26 年 9 月 25 日 89 歳
金子聴松先生
(現代書壇代表)
10 月 8 日 96 歳
浅見錦龍先生
(参事・現代書壇代表)
平成 27 年 1 月 28 日 92 歳

※任期 平成 26 年 12 月 7 日
宮崎 葵光 村井 虹城
村上 俄山 村寄 鴨畦
○毛利 柳村 望月 和風
森川 星葉 八木 山鈴
山田 勝香 吉川 蕉仙

事務所のご案内

〒107-0052
東京都港区赤坂 2-11-1 宮原ビ
ル 6 階
TEL 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
ホームページ <http://shobi.or.jp/>
メールアドレス info@shobi.or.jp